

原稿 正本

コリント後書

第一章

平安

神、即ちもうろの
慈悲の父、一切の

諸般の

神の御旨によりてイエスキリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ書をコリントに在る神の教會あらびにアカヤ全國に在る凡ての聖徒に贈る。預くは我らの父なる神および主イエスキリスト中恩恵と平救と汝らにあらんことを。

讃むべき哉われらの主イエスキリストの父なる神即ち慈悲の父、我らの慰安の神、われらを凡ての患難のうちに慰め、我等をして自ら神に慰めらる慰安をして、我らの患難に居る者を慰むる事を得しめ給ふ。そはキ

聖書改譯原稿用紙

リストの苦難われらに溢るゝ如く、我らの慰安も亦キリストによりて溢るればなり。我ら或は患難を受くるも汝らの慰安と救とのため、或は慰安を受くるも汝らの慰安の爲にして、その慰安は汝らの中に働きて我らが受くる如き苦難を忍ぶ事を得しむるあり。斯て汝らが苦難に與る如く、また慰安にも與る事を知れば、汝らに對する望は堅し。兄弟よ、我らがアジヤにて遭ひし患難を汝らの知らざるを好まず、即ち堅せらるゝこと甚だしく力堪へがたくして生くる望を失ひ、心の中に死を期するに至れり、これ己を頼まずして死人を甦へらせ給ふ神を頼まん爲なり。神は斯る

死より我らを救ひ給へ、また救ひ給はん。我らは後ほ救ひ
給はん事を望みて神を頼み、汝らも我らの爲に祈をもて
助く。これ多くの人の願望によりて賜る恩恵を多くの人の
感謝するに至らん爲なり。

我ら世に在りて殊に汝等に對し、神の清淨と眞實とを
もて、また肉の智慧によらず、神の恩恵によりて行ひし事を
我らの良心の證する所にして、我らの誇あり。我らの書き
贈る事は、汝らの讀むところ知る所の他ならず。而して我
は汝等の中にある者の既に知れる如く、我らの主イエスの
日に我らが汝らの誇、汝らが我らの誇たるを終まで知らん

聖書改譯原稿用紙

事を望む

この確信をもて先づ汝らに到り、再び益を得させ、斯
て汝らを経てマケドニアに往き、マケドニアより更に復た
んぢらに到り、而して汝らに送られてユダヤに往かんこと
を定めたり。斯く定めたるは浮きたる事あらんや。わが定
むるところ肉によりて定め然り、然らず、然らずと言ふ
が如きこと有らんや。神は眞實にて在せば、我らが汝らに
對する言も然り、然らずと言ふが如きにあらず。我ら即ち
パウロ、シルワ、テモテが汝らの中に傳へたる神の子ナリ
スト、イエスは然り、然らずと言ふが如き者にあらず、然りと

手言ふ事は彼によりて成りたるなり。神の約束は多くあり

とも然りといふ事は彼によりてなりたれば、彼によりてア

三アメンあり、我ら神に榮光を帰するに至る。汝らと共に我

らをキリストに堅くし、且われらに膏を注ぎ給ひし者は神

三あり。神はまた我らに即し、保證として御霊を我らの心に

三賜へり。我が靈魂をかけて神の證を求む。我がコリントに

三往く事の由きは汝らを寛うせん爲なり。されど我らは

汝らの信仰を司どる者にあらず、汝らの喜悦を助くる者な

り、汝らは信仰によりて立てばなり。

聖書改譯原稿用紙

第二章

二

三

四

五

いくはく
云うは、

喜ばせんや

われ再び憂をもて汝らに到らじと自ら定めたり。我

もし汝らを憂へしめば、わが憂へしむる者の外に誰か我を

喜ばせんや。われ前に此の事を書き贈りしは、我が到らん

とき我を喜ばすべきもの、反つて我を憂へしむる事のか

らん爲にして、汝らは皆わが喜悅を喜悅とするを信するに

因りてあり。われ大なる患難と心の悲哀とにより、多くの

涙をもて汝らに書き贈れり。これ汝らを憂へしめんとにあ

らず、我が汝らに對する愛の溢るばかりあるを知らしめ

ん爲なり。もし憂へしむる人あらば、我を憂へしむるに

聖書改譯原稿用紙

あらず、幾許か激しく汝ら衆を憂へしむるなり。幾許かとい

へるは、われ激しく責むるを好まぬ故なり。斯も人の多數

の者より受けたる懲罰は足れり。されば汝ら寧ろ彼を省

しかつ慰めよ。恐らくは、その人甚だしき愁に沈まん。この

故に我かんだの愛を彼に顯はさんことを勸む。前に書き

贈りしは、汝らが凡ての事に従ふや否やをも試み知らん爲

なり。汝ら何辭にて人を救さば、我も亦之を救さん。我救

したる事あらば、汝らの爲にキリストの前に救したるあり。

これサタンに欺かれざらん爲なり。我等はその詭謀を知

らざるにあらず。

三

三

五

五

六

七

我キリストの福音の爲にトロアスに到り、主われに門
 を開き給ひたれど、我が兄弟テトスに遇はぬによりて心
 に平安を得ず。彼処の者に別を告げてマケドニアに行けり。
 感謝すべきか、神は何時にてもキリストにより、我らを
 捕へて凱旋し、~~非~~何處にても我らによりて、キリストを知
 る知識の誓を頭し給ふ。救はる者は、~~我~~者にも亡ぶる者にも、我
 らは神に對してキリストの香ばしき誓ふ。この人には
 死よりいづる誓とありて死に至らしめ、かの人には生命よ
 り出づる誓とありて生命に至らしむ。誰か此の任に耐へん
 や。我らは多くの人の如く、神の言を曲がず、眞實により神

聖書改譯原稿用紙

よる者の如く、神の~~前~~前にキリストに在りて語るなり。

第三章

推薦の書

一 われら再びおのれを薦め始めんや、又或人のごとく人の推薦の書を汝らに齎し、また汝らより受くることを要せんや。汝らは即ち我らの書にして我らの心に録され、また凡ての人に知られ、かつ讀まるなり。汝らは明かに我らの職によりて書かれたるキリストの書なり。而れ墨にあらで、活ける神の御霊にて録され、石碑にあらで、心の肉碑に録されたるなり。 424

二 我らはキリストにより、神に對して斯く確信あり。されど已は何事をも自ら定むるに足らず、定むるに足るは神

聖書改譯原稿用紙

三 によるあり。神は我らを新約の役者とふるに足らしめ給へり。儀文の役者にあらず、靈の役者あり。そは儀文は殺し、靈は活せばなり。石に彫り書されたる死の法の職にも、光采ありて、イサエルの子等は、その頃て消ゆべきものなり。光采を見つめ、得がりしほど、自ら人には、況て靈の職は光采からんや。罪を定むる職もし、光采あらんには、況て義とする職は、光采に溢れざらんや。もと光采ありし者も、更に優れる光采に比ぶれば、光采なき者とされり。もし消ゆべき者に光采ありしからんには、況てふがらふるものに光采からんや。別行 我らは斯の如き望を有つゆゑ、更に

希望

三 せずして言ひ 又モーセの如くせざるなり。彼は消ゆべき
 者の消えゆくをイスラエルの子らに見せぬために面帊を
 面 顔におほひたり。然れど彼らの心鋭くなれり。キリストに
 より面帊の廢るべきを悟らぬば、今日に至るまで舊約を讀
 五 む時、その面帊おほなれり。今日に至るまでモーセの書
 六 讀む時、面帊は彼らの心の^上に置かれたり。然れど主に歸
 七 する時、その面帊は取り除かるべし。主は即ち御靈なり、主
 八 の御靈のある所には自由あり。我等はみづ面帊なくして
 鏡に映る如く、主の栄光を見、栄光より栄光に進み、主たる御
 靈によりて主と同じ像に化するなり。

聖書改譯原稿用紙

「第四章」

悪巧
わらわくみ

一 此の故に我ら憐愍を蒙りて此の職を受けたれば、失望
せず、恥づべき隠れたる事を棄て、愚^{わらわくみ}計^{たふ}に歩まず、神の
言を混^まさず、真理を顯して神の前に己を凡ての人の良心に
薦むるなり。もし我らの福音覆はれをらば、亡ぶる者に覆
はれを有なり。此の世の神は此^此の不信者の心を暗まし
て神の像あるキリストの栄光の福音の光を照らさざらし
めたり。我らは己の事を宣べず、たゞキリスト、イエスの主
たる事と我らがイエスの爲^{ため}に汝らの僕たる事を宣ぶ。
光、暗より照り出でよと宣ひし神は、イエス、キリストの顔に

聖書改譯原稿用紙

ある神の栄光の智識を輝かしめん爲^{ため}に我らの心を照し給
へるなり。

七 我等この寶を土の器に有てり、これ優れて大なる能力
の我等より出でずして神より出づることの顯^{あらは}れんためな
り。我ら四方より患難を受くれども窮せず爲^{ため}んあつくれ
ども望^{のぞみ}を失はず、責めらるれども難^や堪^たられず、倒さるれど
も亡^{ほろ}びず、常にイエスの死を我らの身に負ふ、これイエス
の生命の我らの身に顯^{あらは}れん爲^{ため}なり。それ我ら生ける者
の常にイエスのため死に付さるは、イエスの生命の我ら
の死ぬべき肉體に顯^{あらは}れん爲^{ため}なり。さらば死は我らの中^{うち}に

希望
のぞみ
窮
きりぎりす

患難

三 働きた生命は汝の中^{うち}に働くなり。録してわれ信ずるによ

りて語れりとある如く^{ごと}我等にも同じ信仰の靈あり信ずる

に因りて語るなり。これ主イエスを魅へらせ給ひし者の

我等をもイエスと共に魅へらせ、汝らと共に立たしめ給ふ

ことを我ら知ればなり。凡ての事は汝らの益なりこれ多

くの人によりて御恩恵の増し加はり感謝いや^増まりて神

の栄光の顕はれん爲なり。別行^{わか}この故に我らは失望せず我

らが外なる人は壊れども内なる人は日々^{ひび}に新なり。そ

れ我らが受くる暫くの軽き苦痛は極めて大なる永遠の重

き栄を得しむるなり。我らの顧みる所は見ゆる者にあ

聖書改譯原稿用紙

らで見えぬ者なればなり。見ゆる者は暫時にして見えぬ者
は永遠に至るなり。